

飛鳥資料館 展示品紹介 「石造露盤石 定林寺出土」

飛鳥資料館の第一展示室では、昨年度から定林寺の露盤石を展示しています。露盤とは、屋根の頂部にのせる方形の平らな台です。現存する塔の露盤はほとんどが金属製ですが、飛鳥時代には石製のものがつくられました。

定林寺は明日香村立部にある7世紀前半に創建された寺院です。現在の本堂の西側に、飛鳥時代の堂塔の跡が残っています。

定林寺の露盤石は、兵庫県高砂市で採れた竜山石（流紋岩質凝灰岩）でつくられています。竜山石は二上山の凝灰岩等と比べると加工が難しい硬質な石です。飛鳥では、飛鳥大仏の台座や山田寺金堂の礼拝石等に使われました。

展示している定林寺露盤石は半分近くが欠損していますが、それでも大人4人がかりで苦勞しながら移動させて展示しました。重量感ある露盤石から、飛鳥時代の塔の姿や、当時の建築技術に思いをはせてみて下さい。（飛鳥資料館 西田 紀子）



定林寺の露盤石

開館時間：9：00～16：30（入館は16：00まで）／休館日：月曜休館（月曜が休日の場合は翌平日）

ホームページ：https://www.nabunken.go.jp/asuka/ お問い合わせ：☎ 0744-54-3561

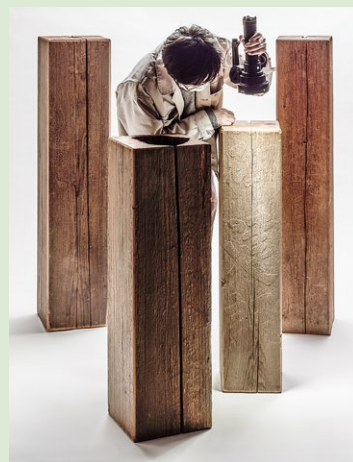
平城宮跡資料館 春期特別企画展

「平城宮跡保存運動のさきがけ 一大極殿標木建設式120周年」

平城宮跡は都が京都に遷って以降、長らく田畠になっていました。明治時代、その平城宮跡の保存運動を進めた人物としては、奈良の植木職であった棚田嘉十郎が知られています。しかし、保存運動の口火を切ったのは、地元である当時の都跡村の有志たちによる運動でした。

保存運動のはじまりは、明治34年（1901）4月3日、第二次大極殿上に標木を建設したことです。平城宮跡は明治時代まで一般にはほとんど知られていませんでしたが、研究者によりその保存状態の良さが指摘されます。そこで地元の人たちが保存・顕彰しようとして、自ら標木を建設したのです。

近年、地元の旧家から当時の関係史資料が発見されました。今年は、その標木建設からちょうど120年目にあたります。その節目の年に、標木建設とその前後の史資料を展示し、平城宮跡の歴史に思いをはせていただければ幸いです。



（文化遺産部 吉川 聡） 発見された明治34年・43年の標木

会期：2021年4月29日（木）～5月30日（日）／休館日：月曜休館（月曜が休日の場合は翌平日）

開館時間：9：00～16：30（入館は16：00まで）

ホームページ：https://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/ お問い合わせ：☎ 0742-30-6753（連携推進課）

■ お知らせ

平城宮跡資料館 春期特別企画展 同時開催

4月29日（木）～5月30日（日）

「平城宮跡保存運動のさきがけ

一大極殿標木建設式120周年」

「大地鳴動一大地の知らせる危機と私たちの生活」

飛鳥資料館 ミニ展示

4月23日（金）～5月16日（日）

「新収蔵品紹介「呉」と書かれた瓦」

第19回平城宮跡クリーン大会

4月3日（土）

朱雀門ひろば 9：30集合（申込不要）

■ 記 録

平城宮跡資料館 新春ミニ展示

1月5日（火）～1月31日（日）

「平城京の丑」

1,425名

飛鳥資料館 冬期企画展

1月22日（金）～3月14日（日）

2,371名

「飛鳥の考古学2020」

平城宮いざない館 展覧会

1月23日（土）～3月28日（日）26,024名（3.18現在）

「鬼神乱舞―護る・祓う 鬼瓦の世界―

Legend of Exorcism」

第67回文化財防火デー トークイベント ライブ配信

1月30日（土）13：30～14：40

「災害からまろう！私たちの文化財」

研究集会

オンライン配信

2月9日（火）10：30～16：50

「水中遺跡保護行政の実態Ⅲ」

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 https://www.nabunken.go.jp

Eメール koho_nabunken@nich.go.jp

発行年月 2021年3月